

平成 28 年度

第 2 回磐田市協働のまちづくり推進委員会 会議録

日 時	平成 28 年 11 月 21 日（月）午前 10 時 00 分～11 時 30 分
場 所	磐田市役所西庁舎 3 階 301 会議室
出席委員	河井孝仁委員、神谷五郎委員、藤原孝一委員、 小畑利栄委員、三輪浜子委員、山形俊子委員、 大杉昌弘委員、山下貢史委員、袴田浩之委員 (欠席者 1 人)
事務局	市民部市民活動推進課長、グループ長、主任（2 名）
オブザーバー	磐田市市民活動センター長

[議題]

- 1 協働のまちづくり提案事業中間報告
- 2 協働推進事業中間報告
- 3 今後の協働推進について
- 4 意見交換

資料	平成 28 年度中間事業報告
資料	平成 28 年度中間事業報告（資料編）
資料	協働の推進体制
資料	今後の協働推進について

[会議概要]

G長 定刻になりましたので、第2回協働のまちづくり推進委員会を開催いたします。お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。
欠席者のお知らせです。山下和也委員が都合により欠席です。三輪浜子委員は、所用により遅れると連絡がありました。出席者が過半数を超えていますので、委員会規則第2条第3項によりこの委員会が成立することを報告します。

続きまして、河井委員長からのご挨拶をお願いします。

委員長 こんにちは。河井です。今日も円滑な会議となるよう皆様のご協力をいただきたいと思います。今日は中間報告もあるということで楽しみにしています。よろしくお願いします。

G長 議事に移ります。最初に提案事業中間報告を、次に事業中間報告を行います。その後、今後の協働推進の順で協議を行っていきます。

また、提案事業についてはそれぞれの担当課の職員が報告します。よろしくお願いします。

なお、担当課職員、関係者は説明、質疑応答後、退室させていただきますので、ご了承ください。

ここからの進行につきまして、河井委員長をお願いします。委員長、よろしくお願いします。

委員長 では、お手元の次第にしたがって、議事を進めていきます。
議題1「平成28年度協働のまちづくり提案事業中間報告」から、お願いします。最初に危機管理課、神村さん、お願いします。

危機管理課

【中間報告・概要】

危機管理課・子どもの健康と環境を考える会 事業説明

「いわた防災ママプロジェクト」今年3年目

[事業概要]

・子どもを持つ母親が子どもを守りながら災害を乗り越える力を身につける。

・子連れでも参加しやすい防災訓練の環境づくり。

指標の明確化・事業継続のための成果指標

・担当課と団体の連携のメリットを確認。(アンケートによる)

アンケート結果（参加者年代アンケート）

⇒担当課では、地元の役員などが中心（→50～60代が多い）

⇒団体が行うと、子どもを連れた母親（30代中心）

◎参加する年代が違い、幅広い年代の方が参加してもらえる状況があり、団体と行政が連携して行う講座が有意義なものとなっている。

・自治会連合会協力による防災部会との意見交換会の実施

⇒12月4日防災訓練の指定避難所での合同実施（一か所）

⇒子どもを連れての訓練開催を予定（三か所）

[今後の見込み]

・その他進捗状況は計画通り

・来年度以降の事業案

◎親子参加の防災訓練開催の増加

◎託児対応⇒中学生ボランティアの活用

委員長

危機管理課から積極的な取組みの報告がありました。ありがとうございました。

委員からご意見、感想ありましたらお願いします。

効果測定指標をとられ、30代からの参加が多いことが分かり、大変心強く感じます。アンケートは年齢だけを聞くものだったのでしょうか。

危機管理課

他の項目もいくつかアンケートを行いました。特に要望に関する項目として、いくつか尋ねました。

・講座内容について、何が良かったか。

・今後、どのような講座内容を希望するか。

・どのような状況であれば、子連れでも訓練に参加しようと思うか。

やはり、「託児」に対する希望が多く見られました。防災訓練に参加しても子どもが動き回り、気が散ってしまう、参加を迎え入れてくれたが実は迷惑に思っていないか、とネガティブに捉えている母親がいる状況がわかりました。この状況を踏まえ、子どもが遊べる環境を整えたら母親たちは子どもを気にすることなく、訓練に集中することができると考えました。

委員長

では、今後も積極的に取り組んでいただきたいと思います。ありがとうございました。

続きまして、学校教育課から報告をお願いします。

学校教育課

【中間報告】

学校教育課・NPO 法人キャリア教育研究所ドリームゲート（概要）

「ぼくの・わたしの道しるべ」

NPO法人

[事業概要]

キャリア教育研

・平成26年度に策定された「磐田教育の道しるべ」12か条を児童生徒たちの心や頭に染み入るような授業を展開する

修所ドリーム

[今後の見込み]

ゲート

実際の授業は3学期のため、事前準備と今後の進め方について報告

・実施校「ながふじ学府＝豊田中学校、北部小学校、豊田東小学校」

・対象学年＝豊田中1年生（道徳）、北部小5年生（学級活動）、豊田東小6年生（学級活動）

・事前アンケートの実施（対象者：児童、生徒、保護者）

⇒「道しるべ」に対する認知度の確認

・アンケート結果

認知度：児童生徒については予想より認知度が高かったが、保護者認知度は低い（⇒昨年度、家庭用クリアファイルの配布済）

理解度：児童生徒、保護者ともに「わからない」が多い

家庭での話し合い：児童生徒、保護者ともに「していない」が多い

・授業の展開内容

豊田中：自分の言葉でわかりやすい道しるべを作る

北部小：最高学年に向けて0学期のスタート

東小：キャリア教育・こころざし教育

ゲストティーチャー
による授業もあり

※0学期＝今回は、6年生に向けての準備期間の意味で、5年生3学期を示す

・授業コーディネートについて

日程調整、時間調整のむずかしさがある

・「地域の宝」＝人材、企業など、多くあることに気付かされた。

・ゲストティーチャーによる授業

少人数グループ（5～10名）に20～25分、対話による進め方で行い、発表まで考えている。（ゲストティーチャー12～15名予定）

委員長

ありがとうございました。主にこれからどのように進めていくかについてお話がありました。非常に期待ができる内容と思いました。

委員の皆さんからご質問、ご意見ありましたらお願いします。

ゲストティーチャーが 25 分で 5～6 名の児童を担当すると言われたが、一人のゲストティーチャーが道しるべ 12 項目を全て語れるとは思えないが、磐田の教育「道しるべ」を語るというより地域のひとがどのように生きているか、という内容になるのではないのでしょうか。もともとの目的であった「道しるべ」を理解することとはかけ離れてしまう感じがするが、いかがでしょうか。

磐田にはこんなに素敵な人がいる、ということを知ることは価値があることだが、「道しるべ」を尊重しましょうというところとの関係性が見えてこない。つかめない。この点については、どのように考えていますか。

学校教育課

この授業の前に、導入として「道しるべ」のための授業だということ踏まえています。子ども達の中に「道しるべ」が入っている状況で地域の方の話聞いて、感動する。その中で、ゲストティーチャーの方には、この中で、特に「ここが大切。ここに心がけてきた。」という内容を入れて、最後に「道しるべ」につなげてもらいます。そして、25 分を終わってもらおうと計画しています。

ワークシートを準備してあるため、この話を聞いた後に「ここが大切、と話があった。」などと、目で見てわかるようになっていきます。最後にこれに絡んでまとめることができるようにしていこうと考えています。「道しるべ」はこんな素敵なことが書いてあるんだと、小学校では「知る段階」と考えます。

委員長

ただ読んで覚えるだけでは意味がないが、この内容ならすばらしいと思います。

委員

平成 26 年度からはじまって 3 年目を迎えているが、この「道しるべ」は他の学年には浸透しているのか。

学校教育課

この授業自体は、初めてなのでまだこれから。平成 26 年度に制定はされたが、授業として行うのはこれが初めてとなります。今後、他の学校に広げていきたいと考えています。

委員

だから、アンケートをとっても「わからない、知らない。」となっていたのか。分かりました。

NPO 法人

CS（コミュニティースクール）ディレクターとして、地域のおばさんとして学校に入っているため、校内に掲示してある「道しるべ」を見

たら、貼ってあるなど感じますが、他の保護者に聞いても「なにそれ？」といった様子です。

委員 それは、学校からお知らせをしていないということ。学校で先生が言わない限り、子ども達は感じない。ましてや、保護者には伝わらない。

NPO法人 まさしく、その課題を解決するために提案をさせていただきました。

委員 講師の方に「道しるべ」をご理解いただく事前打ち合わせがあると思いますが、その中で、実施後に講師の方たちが地域へ戻ったときに「実はこの前、こんなことがあったんだ。」などと情報を発信していただけるようお願いをしておけば、この「道しるべ」が地域に広がると考えます。

また、打合せの中で初めて「道しるべ」に触れる方が多いと思いますが、何かご苦労などありましたらお伺いしたい。

学校教育課 打合せはこれからです。打合せには資料を渡して、ながふじ学府の説明もする予定です。

地域へのフィードバックも必要だと、今のお話から気づかされました。ありがとうございました。

委員 今までとの違い、この事業を際立たせるところはどこでしょうか。児童生徒に対して、どんな言い方で入っていくのでしょうか。

今までやっていたのに、なぜ今このことに取り組むかということ。

NPO 法人 今まで取り組みとしては特に行っていなかったです。

学校教育課 今までも意識していなくとも生き方として、当たり前のこととして行っている中であえて、「価値づけ」ではないが自分が頑張っていくことがこんなことで、こんなに素敵なことだ、と自分で感じられる、そのことが言葉になっていることを子ども達に実感できるようにしたいです。

委員 何でこんなことを聞いたかという、子どもの言葉はとてもわかりやすい。大人に「道しるべ」のような言葉を理解させるには、子どもの言葉であれば、大人も理解しやすいのではないかと思った。大人はただ唱えているだけで何も理解していないと、子どもに言われた時にずるいと言われる。的確な子どもの言葉を理解する方がわかりやすい。子どもの

会話は余分な言葉も無く、結論から伝えるようなこともある。このように子どもの言葉であれば、理解が早いのではないかと感じました。

NPO法人

本人たちが難しく感じる言葉を読み解いて、自分の言葉にしていくことが「ぼくの私の道しるべ」なので、例えば、「大志を抱き困難を乗り越えること」では、ある子どもにとって今は受験、サッカーなどになってくると思いますが、自分の言葉に置き換えて発表してもらうことで、家庭で子どもの言葉で親に話すことで親が理解する、親が変われば地域が変わることにつながると考えます。地道なことですがつながっていくと思います。

委員

意外とそのような方法の方が、理解が早いのではないかと感じる。遠回りかもしれないが。

NPO法人

どうしても文字づらになってしまうため、何とか子ども達の中に落とし込んでいきたいと考えます。

委員長

複数の委員からも子ども達だけに分かってもらうだけでなく、これをきっかけに地域、保護者にどのように伝わっていくのか、ということが重要ではないかとコメントを頂きました。

これは、仕掛け作りになることです。中学生たちが自分の言葉でまとめた物を地域や親が読めるようにしていく。そして資料だけではわからない部分が多い「道しるべ」を自分の言葉にすると、分かりやすい。

例えば、家族を大切にすることでは、「家族が病気の時に気にすること」と言えば分かりやすい。このような言葉であれば、親でも大人でも腑に落ちる。「ぼくの私の道しるべ」は有効に利用できる印象があります。その点もヒントとして考えていただければ良いと思います。

それでは、中間報告を学校教育課からいただきました。ありがとうございました。

これを持ちまして、議題1「提案事業中間報告」を終わります。わざわざご参加、ありがとうございました。

G長

報告、ありがとうございました。ここで、提案事業中間報告の報告者の方たちは、退室となります。(報告者：退室)

委員長

引き続き、議題2の「協働推進事業中間報告」について、事務局からお願いします。

事務局

【協働推進事業中間報告】

概要：報告書に記載した内容について、補足報告

- 1 市民の意識の醸成および啓発に関すること
 - ・情報提供を受ける仕組みづくりを検討し、事業者や交流センターでの活動情報を発信していく。
 - ・「市民活動団体一覧」の更新については、掲載団体の増加があり、活動写真の掲載により見やすいものになった。
 - ・福祉課との協力体制づくりで、団体紹介の機会を増やしたり、活動参加者の増加を目指したい。
- 2 相談窓口の充実及び活動機会の提供に関すること
 - ・「子ども食堂」に関する相談
 - ・「事業所の社会貢献活動」に関する相談
- 3 情報交換、評価の仕組み及び市民等の参加の仕組みに関すること
 - ・ボランティアサポーター制度、継続と社会福祉協議会との関係づくり
- 4 人材育成、支援制度及び活動拠点の確保に関すること
 - ・中学生ボランティア（中1～3対象）
- 5 その他協働のまちづくりの推進に必要なこと
 - ・交流センターとの関係づくり、講座企画の相談、市民活動団体の紹介など

委員長

庁内連携も進んでいる様子が伺えました。それらも含めて、委員からありましたら、お願いします。

委員

「子ども食堂」の件です。事業性がないということで市としては特段サポートはしていないということだったが、やり方次第でできるのではないかと思います。良い発想なので、「市」のサポートがあると分れば親も安心して子どもに利用させることができるのではないかと感じました。

事務局

今回は、個人の事業主が持つ店舗の利用で、地域との関わりもなかった点もありました。また、公共施設の一部を利用したり、地元の方の協力があることが分かれば、行政として関わりやすかったと感じるところがあります。うまくサポートできる仕組みがあると良いと感じています。

委員長

公共施設でプロの人が食事の準備をすることができる設備はありますか。

事務局 交流センターには調理室がある程度です。

委員長 交流センターの利用できる時間はどうですか。子ども食堂は 9-5 時であるわけがないから、朝 6 時から、夕方夜間の利用もできますか。会場の対応はできますか。

事務局 交流センターの利用時間の規程があるため、今現在で利用可能かはわかりませんが、具体的に話が進むようになったら担当課と相談をしていきたいです。

委員長 普通の理屈から言えば、小畑委員が言ったようにはやらないです。やらない方が楽だから。やるためにはどうするか、なぜ個人のところではダメなのか、といった発想をしていかないと「公共の場所だったら良いです。」と言ったら、やらないということになります。自分のところだからやれるわけで、わざわざ出掛けて行ってやる人はいません。

本当に子ども食堂のニーズがあれば、市民ネットで対応しようといった場合に、どのように行政は協力できるのか、せっきくネットワークができて来たところだと思うので、子ども支援課、福祉課とどのようにネットワークを繋げていくか、自分たちができなければどうしていくのか。第一 T V はどのようにその情報を得たのか。

事務局 よく分かりません。

委員 詳しい経過は分かりませんが、「お母さん新聞」の方が紹介をしたと思います。

委員長 そうしたら、広報だけはお手伝いできないか、どこかへつなぐことを役所が行うぐらいはしても良いと思うが、この辺りはどうですか。

事務局 G 長 お話を伺った時、価格や今後の方針、店舗の営業時間を利用すること、夕方他のお客さんがいるところなど、子ども達がご飯を食べる環境などいろいろと問題になると考えてしまったことはあります。

子どもの居場所づくりと考えているのか、営業時間を利用して、「営業」の意味合いが強くないか、という点を感じたところがありました。

委員長 C S R を考えたとき、きれいに分かれなと思う。これは公共の福祉、これは事業と。むしろ分かれなところに意味があるとき、それをどの

ように考察されていくのか、今後、関心を持っています。

事務局
G長

このようなニーズは高くなってくると考えています。そこでどのような運用だったら、市として事業として打ち出せるのか、かといってCSRの面もあるため、バランスが必要だと考えます。

委員長

そのあたりだと思います。考え方をしっかりしておかないと、やらないといった方向に行ってしまうがち。どこがリスクをとるのか、考えて。

事務局
G長

提案事業として実施できるかもと、考えたのですが。

委員長

逆に言うとそれをわざわざこの委員会で報告したことは、うれしいこと。言わなければ、だれもわからないで済んでしまうこと。それをわざわざ提案をしてくれて、誰からも質問を受けられる場を提供してくれたことは良いことだと思う。その点は高く評価したいところ。

市民活動
センター長

市民活動センターにもこのような話が入ってきます。やりたいと思っている方は、貧困家庭に焦点を当てたいという思いがあり、対象になる方々のデータはもらえるのかと聞かれることがあります。普通に考えるとどの子も対象と考えるべきと説明をするところから入らなければならず、苦勞するところ。そのため、なかなか先に進めない状況にあります。

委員長

ピンポイントの個人情報ということより、そのような子供たちはどこにいるのかを考えていくべきです。タッチポイントはどこなのかという発想があれば、そのようなことをむしろ教えてあげること。役所の専門性によって、名簿をもらうことではなく、お客さんと呼ぶには何が必要なのかをしっかりと提起をしてあげることが必要です。

優しく熱い心をもっている人がいる、そこにクールヘッドのところを役所が担っていただきたいと思います。

委員

社会福祉協議会にも「子ども食堂」の相談を受けています。地域活動の延長でニーズに対応したいと思う方がいます。運営の主体が「アイあい塾」のようなNPO法人ですすでに始まっていたり、高齢者の居場所づくりでは、見付通りの空き店舗利用で主婦の方たちがお店をやっている事例はあります。運営の主体がどんな形態なのか、どのようなアドバイスをすれば良いのか、迷う時があります。営業なのか、市民活動なのか本当に互助活動なのか、うまく繋げるべきところにつながられているか、

うまく活動が立ち上がっていくお手伝いができれば良いとは考えています。

委員長

それほど難しく考える必要はないです。「子ども食堂」もはやりなので、うちのご飯を食べさせてやるよ、程度の気持ちの人もいて、そこに役所が公共ですから関わります、ではなくこのような内容のもので、これはこのような点が大変ですよと言っておけることができれば良いと思います。真面目に考えすぎで、これは公共、これは事業と考えることはないです。

先ほど見ていただいた「市民活動団体一覧」についても、ご意見あれば。

それでは、議題 2 についてはこれで終了したいと思います。続いて議題 3「今後の協働推進について」事務局から説明をお願いします。

事務局

【今後の協働推進について】

概要：今までの「協働の推進体制」（資料確認）

課題と改善点①情報収集と発信

②ネットワークづくり

③人材育成

④スキルアップ（市民、市民活動団体など）

今後の重要項目：ネットワークづくりに必要な情報の収集と発信

①情報の収集

②情報の発信と共有

③活動発展の支援

④成果指標

委員長

P D C A の組み立てができています。今後の協働推進体制について、ご質問ご意見ありましたら、お願いします。

委員

積極的に考えていただいていると感じますが、先ほどの報告や推進体制に然り、システムづくりやお互いの様子を知る必要があるといった中で、先ほどの中間報告の中で、マッチングにしろ体制づくりにしろ、実施する前には事前のアプローチが必要だと考えます。先ほどの危機管理課の話の中にヒントがありましたが、いろいろな人へのアプローチの方法を考えると、その活動を行う時により活発的に参加できるような体制がとれるのではないかと思います。

委員長 これはどうですか。やる気十分の方が相談してくるのは良いが、山下委員が言われたようにそこへだんだんと思いを高めていくような人たちへ、ちょっとした気づきなどを引き込むような方法はこの中にはありますか。

事務局 今現在、具体的なことは考えていません。情報を集める段階でどのような働きかけをしていこうか、を考えていましたが山下委員が言われたようにきっかけづくりがあった方がよりわかりやすい道筋になると感じましたので、また方法を考えていきたいです。

委員長 方向性は良いと思う。流れをぶつぶつと切るのではなく、それぞれの時点で、やることをつなげている。

先ほどの子ども食堂でも、ほとんど事業化しないところから事業にするまでの中で、ここでは広報、新聞社へ情報を提供するだけとなることもあるだろう。一方ではG長が言ったように、この内容で提案事業をやってみてはどうかといったこともあるだろう。あるいは、これはほとんどの役所の仕事なので役所でといったこともあるだろう。

このようにシームレスにやるような形がだんだん市民活動推進課ではやれるようになってきたと思う。今後もぜひ引き続きやっていただきたい。

委員 情報を集める、確かにそうだが情報をどのようにとってくるかというところが、そこが繋がらないことが一番の課題と感じています。

情報に関しては、団体や企業、それぞれにとって課題となっています。その人にとって、その団体にとって、その企業にとって今必要な情報がどのような形で集まると良いかなと、そこが本当の課題ではないかと感じます。せめて、今関わっている団体からでも今できることから進められると良いと思います。

先ほど中間報告の中にありました10月に行われた「社会参加促進フェア」については、とにかく福祉は福祉、企業は企業となりがちだが、高齢者の雇用促進ということで全体の共通の認識の中で行われていました。私ならボランティアで活動できます、私ならこのような働き方ができます、といった場面を通じてやられた方が結構いらっしゃいました。これは地域の中で大事なことではないかなと思っています。今後もこの事業は継続していく方向ですからぜひ尽力していただきたいと思っています。

事務局 協働推進の中では、4つの指針があり前回の委員会でも委員の皆さん

G長

の意見からも、「情報」という部分については明らかに弱いところ。

4つの指針も均等に取り組まなければならないところだが、この「情報収集」については、自分たちの足元をすくわれるほど弱いと実感しています。市役所にも、たとえば「マスク」など寄付を頂くことがあった時、どこからいただいて、その後どうなったのかを把握しているところが無い。担当課は分かるとしても市役所全体で把握しているところが無い状況。市内でもこのような状況があるため、市民活動団体や企業などそれぞれの情報をデータベース化してコーディネートやマッチングをしていかないといけないと感じています。今回、このような提案をさせていただきましたが、今後2年なら2年を掛けて、「情報」についてテーマを絞って取り組んでやらせていただきたいと思います。

委員長

データベースを作るとお金がかかります。「エヴァーノート」というものがある、これを利用すれば、情報を取りあえず入れておけば、後でテキストを利用して検索して情報を取り出せる。「子ども食堂」などで検索すれば、昔こんな話があった、ということになる。このような形でないと、データベースを作るとなると、できたところに疲れ果ててしまう。日常の仕事を全て入れておいて、検索する方が利用しやすいと思う。このような点も今後相談されると良いと思う。

委員

交流センターへの情報提供あるいは情報提供してもらうことについて、皆さんのお話と一緒にになってしまうが、「情報提供」について交流センターとしては、「また、面倒なことを言ってきた。」ということが現地の声。何をやっているかわからないのに情報だけ出してほしい、出したら出した情報はどうなっているの、ということになる。リターンもないから次につながらない。いい加減になってしまいがち。何の目的でやるから、協力してね、全体像を入れた物を見せてお願いした方が出す方も出しやすい。そうれば、「あっ、これも出した方がいいか！」とお願いしたことだけでなく、関係の情報も集まってくると思う。特に出先は「めんどろだな」ととらえがち。

委員長

「情報提供」です、と言って情報提供をすることは無理で、日常業務がある中で、プラスαで邪魔な仕事、日常的に電話で聞いたメモなどが実はそれが情報です、といった形をとっていかないと、改めて「～シート」を作ったうえで、改めてそれを転記してなどといったことは、無理だと思う。仕事で使ってもらえるものが実はデータになるようなところを実際に現場で活動されている藤原さんなどと一緒に共有してみたり、企業では進んでいるところもあると思うので、連携したらどうかと思い

ます。

委員長

この成果指標はアウトプットの成果指標なので、アウトカムもほしいかと思います。情報発信はしました、と自分たちは思っている情報を受けたと思っていない場合もある。そちらの方が大事。情報交換の場を設けても全く情報交換ができていこともある。これは大事なことだが、それに加えて参加した人からや、受信した人がどのように思っているか、できるだけ聞き取ることができる方が良い。それこそ、毎月1回以上ではなく、受信できていると思えば2か月に1回で済むことかもしれない。

アウトカム型の成果指標も検討したら良いという印象を受けた。

他にどうでしょうか。なければ議事はこれで終了として、この後の意見交換は事務局が主導されるため、私のほうはこれでお返しします。ありがとうございました。

事務局

委員長、ありがとうございました。

折角の機会ですので、情報提供、市に対するご質問、ご意見などありましたら、ぜひご発言ください。

【連絡事項・事務局より】

次回開催について

市民活動フェスタ

以上で、第2回協働のまちづくり推進委員会を閉会します。本日は、ありがとうございました。